

ダイヤスプレー

プレッシャー式噴霧器

商品名 **コンクリート型枠剥離剤用・除草剤用**

型式名 **NO. 5501 5L 用** **NO. 5701 7L 用** 特許申請済

取扱説明書

- ・ ご使用前に必ずお読みください。
- ・ 必要なときに読めるよう、大切に保管してください。

安全上の注意

⚠ 注意

- ご使用後は屋外や窓際などの日光(紫外線)のあたる場所に置かないでください。
長期間日光(紫外線)にあてると本器の材質が劣化し、破裂するおそれがあります。
- タンク部に傷をつけたり、落として強い衝撃を与えないでください。
傷や衝撃は本器の安全性に重大な影響を及ぼします。
- 安全弁が規定加圧回数より多く加圧しても作動しない場合は、すぐに加圧をやめてください。加圧を続けると破裂するおそれがあります。(4ページ [5] 参照。)
- 火や高熱のそばに置かないでください。またお湯をタンクに入れないでください。タンクは十分な耐圧強度(使用圧力の約5倍)がありますが、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 薬品は必ず規定通りに薄めてください。誤使用で高濃度の薬液を使用した場合、ホースが軟化して破裂するなど本器の材質に悪影響を及ぼすおそれがあり、負傷または物的損害を生じる可能性があります。
(5ページ **薬液の薄め方(目安)** 参照。)
- 規定の希釈倍数が50倍～原液など特に高濃度で使用する薬液は、有機溶剤が含まれていないことを必ずご確認ください。有機溶剤が含まれている場合は、絶対に使用しないでください。ホースが軟化して破裂するなど本器の材質に悪影響を及ぼすおそれがあり、負傷または物的損害を生じる可能性があります。
(5ページ **薬液の薄め方(目安)** 参照。)
- 薬品を噴霧する場合は、手袋やマスク・防護めがねをつけるなど、薬品の取扱説明書の指示にしたがってください。

■ 除草剤ご使用の場合

- ・ 散布前に必ず使用する除草剤の説明書(注意事項)をよく読んで正しくご使用ください。
- ・ 除草剤の薄め方は散布面積に必要な散布液量を規定どおりに計算して散布液を作ってください。
- ・ 除草剤の散布は雨または風の強い日は避けてください。
- ・ 除草剤は大事な植物にかからぬようにムラなく均一に散布してください。
扇状ノズルを使用しますと霧が飛び散り難く、効率よく散布できます。
- ・ 散布作業中はマスク・ゴム手袋・防護めがねを着用し、作業終了後は顔や手足等の露出部を石鹸で洗い、うがいをしてください。

■ 剥離剤ご使用の場合

- ・ 使用する剥離剤の使用法及び注意事項をよく読んで正しくご使用ください。
- ・ 揮発性(溶解力)の強い剥離剤及び樹脂系または粘度の高い剥離剤は使用しないでください。
- ・ 剥離剤には原液使用タイプと水で薄めるタイプとがあります。
水で薄める剥離剤は必ず規定通りに希釈しよく攪拌してください。
- ・ 塗布面のコンクリートノロ、油、汚れ等を除去してから規定通りの液量を均一に塗布してください。
- ・ 作業終了後の噴霧器はシンナーまたは石油等で洗浄しないでください。
洗浄する場合は水を使用してください。
- ・ 希釈液は厳寒期に凍結したり、夏期長期間放置しておくと腐敗することがありますので早めに使用し、タンク内に保管しないでください。

⚠ 注意

は指示に従わなかった場合、人が傷害を負う可能性および物的損害を生じるおそれのあるものを示しています。

耐用年数について

消費生活用製品安全法が、2007年に改正されたことを受け、安全性及び事故防止の観点から耐用年数を10年と設定させていただきました。本製品は十分な耐久性及び安全性がありますが、耐圧容器を使用しているため、本書の注意事項をお守りいただいたうえで、**使用開始から10年**を目安に使用を中止してください。経年劣化により、破裂などの重大な事故をおこす可能性がありますので必ずお守りください。また、この文書中の「耐用年数10年」は、使用開始から10年間の品質を保証するものではありませんのでご了承ください。

※本書の内容、及び本器の仕様は、予告なく変更することがあります。

⊗ 使用できない主な薬液

厚生労働省認可の防疫用薬品（ダイアジノン乳剤・スミチオン乳剤・DDVP乳剤等その他の防疫用薬品）

- ・酸性およびアルカリ性の強い薬品・クレゾール・クレオソート・しろあり防除薬液・引火しやすい液体
 - ・シンナーなど溶解力の強い溶剤・塗料・洗剤及びクリーナー・高濃度の農薬・粘性のある液体など。
- ＊ この他にも使用できない薬品がありますので、当社にお問い合わせの上、ご使用ください。

農水省認可の一般農薬用ダイアジノン乳剤・スミチオン乳剤・DDVP乳剤等は使用できます。

⊗ 禁止事項

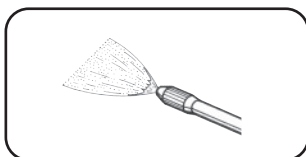
- ・本器を改造したり、本書に説明のない分解や修理を行うことは本器の安全上に重大な影響を及ぼすおそれがあります。決して勝手な改造や修理を行わないでください。

主な用途 ●コンクリート型枠剥離剤用・除草剤用。

各部の名称と特長

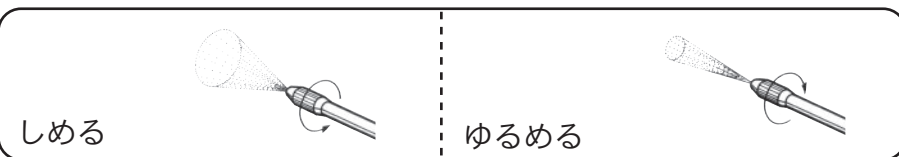
- 2種類のノズルで最適な霧が選べます。

扇状噴霧ノズル



- ・霧が適度の粗さで扇状に広がります。

円錐状噴霧ノズル（袋に入っている付属ノズル）



- ・細かい霧で広範囲に散布。

- ・ノズルをゆるめると霧が粗くなり風にとばされ難くなります。さらに緩めると直射になります。

● 握りやすいハンドル

- ・両手でしっかりと握れ加圧できます。

● 便利なハンドルロック式

- ・ハンドルを回すだけでポンプの脱着が楽にできます。
- ・ハンドルを持って持ち運びができます。

● 空気吹き上げ防止装置

- ・噴霧後ポンプを開けるときに、残圧で吹き上がる空気を弱めます。

● 便利な吊り下げフック

- ・噴霧しないときなど、ピストル本体をじょうごのフックに掛けられます。
- ・じょうごを回転させて、フックの位置は変えられます。

● じょうご型注入口

- ・液の注入が楽にできます。

● 自動安全弁装置

- ・圧力約500kPa(5kgf/cm²)以上の圧力は外部に逃げますので安全です。
- ・ノブを引くとタンク内の圧力を逃がすことができます。

● ノズルホルダー

- ・ノズルパイプがしっかりと取り付けます。

● 耐久性に優れたポンプピストン部

- ・シリンダー径が細く、長いので軽く加圧できます。
- ・ピストンの耐久性は抜群です。

● 丈夫なタンク

- ・タンクの耐圧性に優れ、しかも自動安全弁装置が作動しますので安全です。

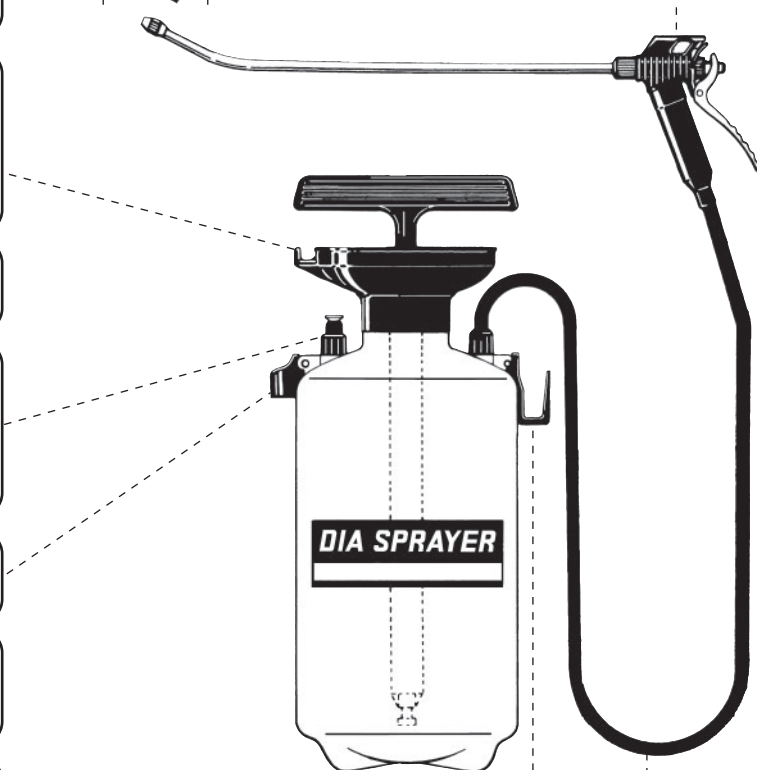
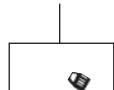
● ステンレス製ノズルパイプ

- ・丈夫なステンレス製。53cm。

● ピストル式噴霧装置

- ・瞬間噴霧・連続噴霧が片手で簡単にできます。

※2種類のノズル



● ホースフック

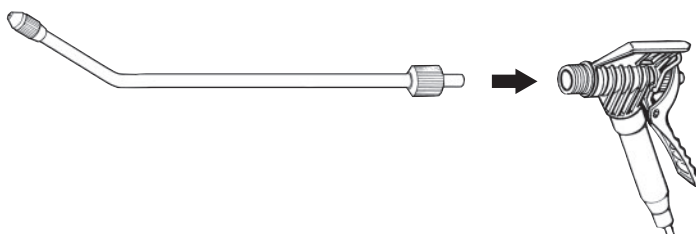
● ホース2m

主要材質 ポリプロピレン・硬質ポリエチレン

ご使用方法

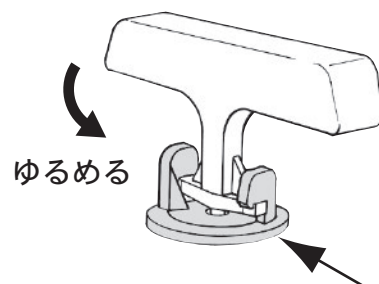
1 ノズルパイプをピストル本体に装着する。

- ・図のようにノズルパイプをピストル本体にしっかりとねじこんでください。



2 ポンプハンドルを左に回して、タンクから取り外す。

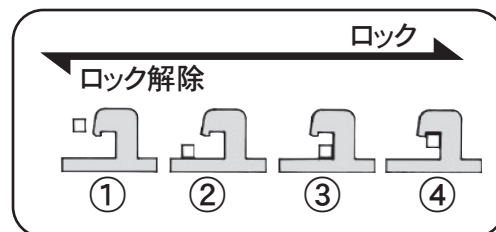
- ・図Aのようにハンドルをロックさせて左に回しポンプキャップを緩めてください。
- ・ハンドルがロックされていないと少し空回りして、ロック部を傷める可能性があります。ロックした状態を確認してからハンドルを左に回してください。



図A 空気吹き上げ防止装置

〈ハンドルロックの仕方〉

- ・ロックさせるときは、図Aのようにハンドルを下に押し付けて左に回す。①→②→③→④
- ・ロックをはずすときは、ハンドルを下に押し付けて右に回す。④→③→②→①



3 薬液をタンクに入れる。

- ・タンクに入れる液量は、5% (NO.5501) 7% (NO.5701)まで。
- ・タンクに表示された「5」「7」の最高目盛りまでにしてください。
- ・最高目盛り以上入れると、加圧したときに安全弁装置より液が噴出する事があります。
- ・薬品を使用する場合は、同梱の計量スポイトを用いるなどして、薬品の使用書に基づいて薄めてください。

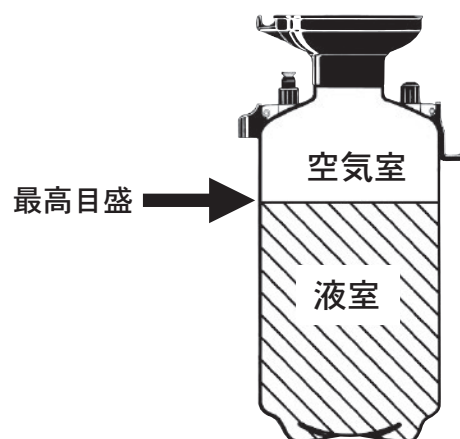
※同梱の計量スポイトの目盛りは多少の誤差がありますのでご了承ください。

※薬品の薄め方（目安）は5ページをご参照ください。

- ・水和剤（粉末状）は穴づまりの原因になりますので、よく溶かしてお使いください。

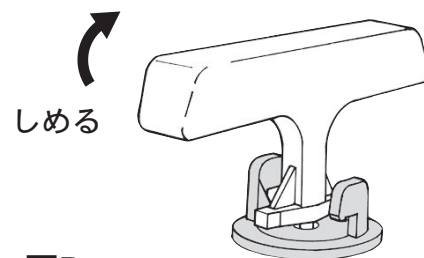
※水和剤使用後はより念入りに洗浄してください。

（6ページの「使用中・使用後のお手入れ」ご参照）



4 ポンプハンドルを右に回して、タンクに取り付ける。

- ・ 3ページ ② 図Aのように、ハンドルをロックさせて右に回し、空気が漏れない程度に締め付けてください。
- ・ きつく締めるときは、図Bのようにロックしていない状態でハンドルを右に締め付けてください。



図B

5 ハンドルを両手で握り加圧する。

- ・ 加圧するときは、ハンドルとロック部があたらない位置（ ④ 図Bの位置）で加圧してください。
- ・ 加圧すると安全弁装置の緑色のゲージがでてきます。
- ・ 圧力が約500kPa (5kgf/cm²)になると赤色になります。
- ・ さらに加圧すると弁が開き、空気が抜けますので、加圧を止めてください。



〈ご参考〉 ■液を最高レベルまで入れた場合は約60回前後（規定加圧回数）で500kPaの圧力になります。
※液量が少ない場合は加圧回数が増えます。噴霧力が弱くなったときは再度加圧してください。

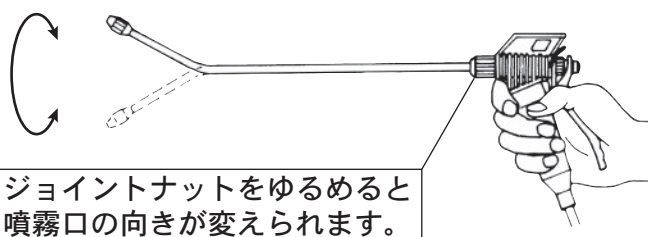
⚠ 注意

- 規定の加圧回数より多く加圧しても安全弁が作動しない時は、すぐに加圧を止めてください。
*安全弁の作動が悪いときの対処法は、「故障かな？と思ったときは」(7ページ)をご参考ください。
- 加圧するときは、平らな場所でハンドルに左右均等の力が加わるように垂直に加圧してください。

6 噴霧を行う。

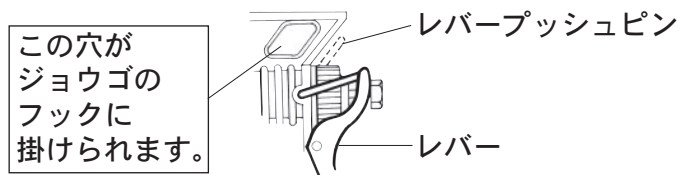
〈瞬間噴霧の仕方〉

- ・ 霧を断続的に出すには、レバーを握ると噴霧し、手をゆるめると止まります。



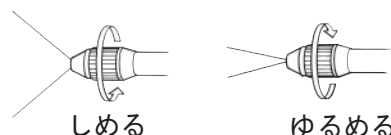
〈連続噴霧の仕方〉

- ・ 霧を出したままにするには、レバーを握って、レバープッシュピンをレバーにはさんでください。



〈霧の角度の調節方法〉

- ・ ノズルを右にしめると、霧は細かく広範囲に噴霧します。
- ・ ノズルを左にゆるめると、霧は荒く狭くなり、さらにゆるめると直射になります。風の強いときに便利です。



● 2種類のノズル

①扇状噴霧ノズル

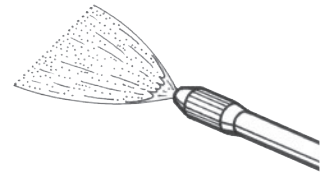
(メッキなし、ノズルパイプにセットされているノズル)

■除草剤のとき

- ・ 散布の幅や境界が限られているところに他に霧が飛び散り難く均一に散布できます。

■剥離剤のとき

- ・ 型枠面内に均一に塗布できます。



- ・ 適度の粗さの霧が平らに均一に噴霧します。
- ※扇状ノズルは霧の調節ができませんのでノズルのネジはしめてご使用ください。

②円錐状噴霧ノズル

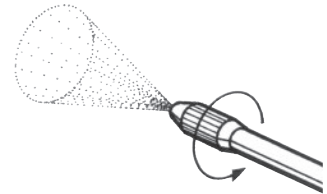
(メッキ付き、袋に入っている付属ノズル。)

■除草剤のとき

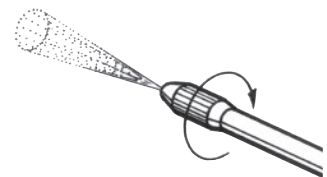
- ・ 広範囲に散布するときに使用してください。
- ・ ノズルを緩めると霧が粗くなり、風に飛ばされ難くなります。
- ・ さらに緩めると直射になります。

■剥離剤のとき

- ・ 大量に塗布するときに使用してください。



- ・ 細かい霧で広範囲に散布。



- ・ 粗い霧で遠くまで集中的に散布。

※ノズルパイプ先端の扇状噴霧ノズル(メッキなし)と取り替えてご使用ください。

※はずしたノズルは紛失しないようにしてください。

薬液の薄め方(目安)

* 薬液に添付されている取扱説明書を必ずお読みください。

■除草剤の場合

- 散布面積に必要な水量に除草剤を必ず規定通りに薄めてよくかきまぜて散布液を作ってください。

散布面積・・・30m²の場合

[薬液の希釈計算 例]

1m ² 当たりの薬剤使用量・・・2mL	30×2＝60mL
1m ² 当たりの散布水量・・・200mL	30×200＝6000mL (6.000L)

つまり6リットルの水に60mLの薬剤をとかした散布液を30m²に均一に散布すればよいのです。

■剥離剤の場合

※原液のまま使用する油性タイプと水で薄める水溶性タイプがあります。

- 水溶性タイプは別の容器に必要な量を必ず規定通りに薄めよくかきまぜて希釈液をタンクに入れてご使用ください。



注意 <下記の場合、ホースが軟化して破裂するおそれがあるので使用を禁止します。>

①規定の希釈倍数が50倍～原液など特に高濃度で使用する薬液で、有機溶剤を含む場合。

②薬品に「噴霧器の使用禁止」と表示されている場合。

上記の場合、ホースが軟化して破裂し、目に薬液が入るなど事故の原因になりますので、絶対に使用しないでください。また、上記以外でもホースが軟化して膨らむなどの症状がでた場合はその薬品の使用を禁止して、軟化したホースは、直ちに新品と交換してください。(8ページ部品セット 130 132 参照)

7

噴霧を終える。



注意

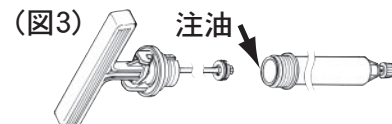
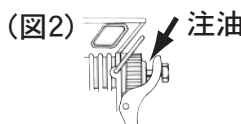
- 圧力が残っている状態でポンプなどをはずすと、顔などに薬液がかかるおそれがあります。まず安全弁装置のノブを引っ張り、圧力を逃がしてください。

使用中・使用後のお手入れ

●本器の性能を長く保つために、次の事項をお守りください。

- ・薬液は残さず1回で使い切ってください。長期間タンク内に保存したままでは薬液が変質するだけでなく、本器の性能に影響を及ぼすおそれがあります。
- ・使用中に次のような問題が出たときの対処は、下記のように行ってください。

①ノズル（噴霧口）の回転が きつくなったとき	パッキングに注油する。	図1ご参照
②レバーの作動が重くなったとき	シャフト部に注油する。	図2ご参照
③ポンプの作動が悪いとき	シリンダー内壁に少量注油する。	図3ご参照
④その他の問題が出たとき	「故障かな?と思った時は」ご参照	7ページに記載



〈ポンプの分解の仕方〉

- ・タンクからポンプ部を取り外す
- ・ハンドルをロックしたままシリンダーをしっかりと握って左に回す。
- ・取り付けるときはしっかりと締め付ける。

使用後の大切なお手入れ

※本器を洗浄しないで保管すると、薬液の影響でホースおよびタンクなどが劣化します。

①タンクに真水（水道水）を入れ、タンク全体をよくふって内部を洗浄してください。

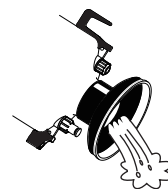
- ・タンクに約 1L 真水（水道水）を入れてください。



- ・タンク全体をよく振ってください。



- ・洗浄水を捨ててください。



×3回

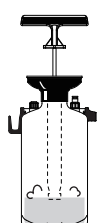
左記の手順を
3回ほど、繰り返し
返してください。

②本器の通液路を洗浄するために再度タンクに真水（水道水）を入れて加圧し、約1分間噴霧してください。

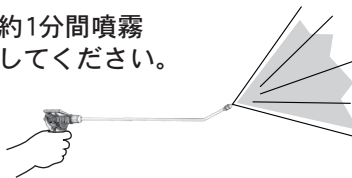
- ・タンクに約 1L 真水（水道水）を入れてください。



- ・タンクを加圧してください。



- ・約1分間噴霧してください。

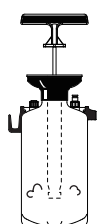


③本器を洗浄後は、タンク内と通液路を完全に空にして保管してください。

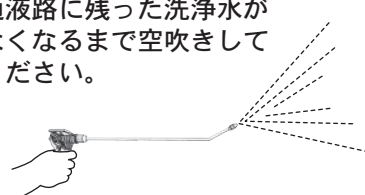
- ・②で残った洗浄水を捨ててください。



- ・タンクが空の状態、再度加圧してください。



- ・通液路に残った洗浄水がなくなるまで空吹きしてください。



※特に、水和剤を使用した場合は、薬液が完全になくなるまで真水（水道水）を噴霧して本器内を洗浄してください。薬液がバルブ本体、ノズル内部に残ると固化して故障の原因になります。

⚠ 注意

ご使用後は、よく洗浄し圧力を抜いた状態で、包装ケースに入れ、日光（紫外線）のあたらない暗い場所に置いてください。タンクは十分な耐圧強度（使用圧力の約5倍）がありますが、長期間日光（紫外線）にあてておくとタンクが劣化し、破裂してケガをするおそれがありますので必ずお守りください。同じく、薬液を長期間タンク内に入れていたり、薬液を洗い残した場合もタンクが劣化します。

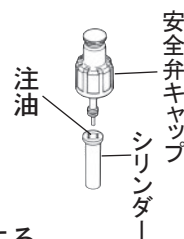
- ・冬期は凍らない所に置いて保管してください。
- ・使用しているうちに、ネジ部が緩むことがあります。ときどきご使用前に各部のネジをしっかりと締めつけてください。
- ・パッキング類または、ホース等は使用年数、使用状況により軟化したり硬化したり、摩耗することがあります。ときどきチェックして、そのような場合は新しいパッキング類（関連部品を含む）と交換してください。

*「分解図と部品セット番号」(8ページ)をご参照ください。

故障かな？と思ったときは

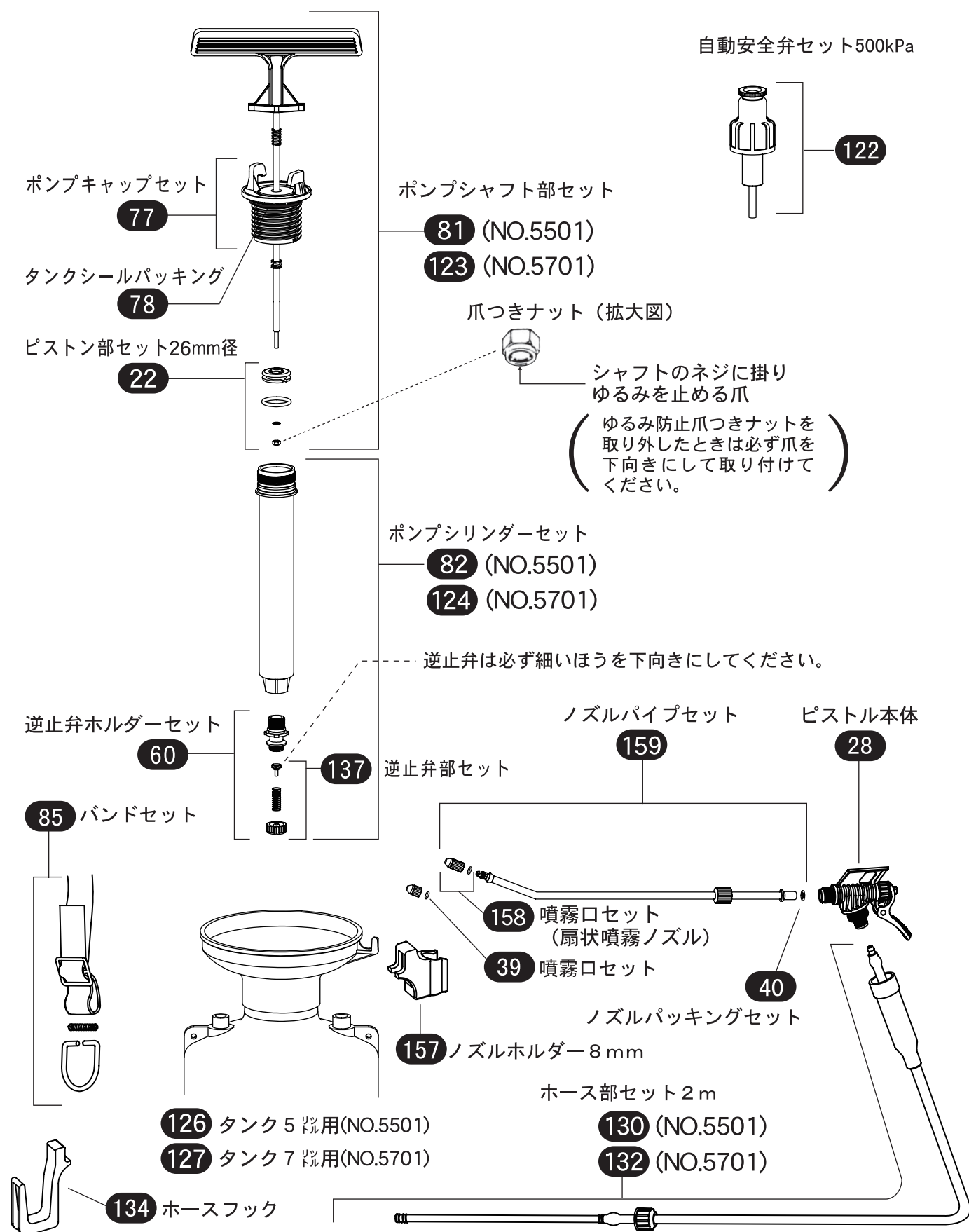
- 本器の分解修理には、本書に書いてある安全上の注意、および本器の構造が理解できる方が行うようにしてください。
- 修理の際には、「分解図と部品セット番号」（8ページ）をご参考になしてください。
- 分解修理の後は、各ネジ部がゆるんでいないか、及び安全弁装置が作動しているかどうかなど安全性をよく確認してご使用ください。
- 油は機械油やシリコンオイルを用いてください。（有機溶剤の入った油は避けてください）

現象	原因	処置及び修理方法
霧が出ない。 霧が弱い。	圧力が不十分 空気もれ ゴミ詰まり	安全弁装置のノブを引き圧力を確認して再度加圧する。 各部をよく締めて空気もれを確かめる。 ホース及び噴霧口の掃除。
霧が曲がったり、 片寄ったりする。	噴霧口及びムシ部の穴のゴミ詰まり 	図をご参考に噴霧口を取り外し、内側から「つまようじ」のような柔らかい物で噴霧口に傷をつけないように掃除する。
ポンプを加圧しても、 あまり圧力が上がらない。	タンクとホースの接続ナットがゆるんでいる 逆止弁部内のゴミ付着または部品の紛失 ピストンパッキングの劣化または破損 タンクシールパッキングの劣化または紛失 ポンプキャップとポンプシリンダーがゆるんでいる 安全弁キャップがゆるんでいる	ホース止めナットをタンクによく締め付ける。 ゴミを取り除く。部品セット 60 と交換。 部品セット 22 と交換。 部品セット 78 と交換。 ロックしたハンドルをシリンダーを持ってよく締め付ける。 安全弁キャップをよく締める。
グリップ後部からの水もれ。	バルブ本体とホースの接続ナットがゆるんでいる	グリップを左に回し取り外しホース止めナットを締め付ける。
バルブのシャフトから水がもれる。	止めナットのゆるみ	止めナットを締め直す。
霧が止まらない。	パッキング類の劣化または破損	部品セット 28 と交換。
レバーの動きが重い。	レバープッシュピンがレバーに掛かっている	レバープッシュピンをレバーからはずす。
安全弁の動きが悪い。	油切れ	シャフト部に油をさす。 (6ページ、②ご参照)
ポンプの動きが悪い。	ゴミ・ほこりの付着 パッキングの劣化または破損	安全弁キャップをはずし内部の汚れを取り除き、シリンダー内壁に油をさす。 部品セット 122 と交換。
	油切れ（固化し付着）	シリンダー内壁に少量注油する。 (6ページ、③ご参照)
	薬液によるピストンパッキングの膨潤	部品セット 22 と交換。



分解図と部品セット番号

●白抜き番号は部品セット番号です。
 部品の発注は部品セット番号でご注文ください。



株式会社

フルブラ

〒110-0016 東京都台東区台東3-11-6

TEL 03-3834-0331(代表)

<http://www.furupla.co.jp/>